

2018年 5月13日 京都新聞掲載

「思いついた一手 大事に」

国民栄誉賞 将棋の羽生2冠

将棋から学んだことや魅力を子どもにも語りかける
羽生2冠(京都市上京区・北野天満宮)



市児童館学童連盟と日 棋大会で決勝トーナメント3回戦以上に進んだ府会、市の主催。洛和会 内の小学生ら48人を招待ヘルスケアシステム(山 科区)が3月に行った将 羽生氏は、小学1年生

2月に国民栄誉賞を受賞した将棋棋士の羽生善治2冠(47)が子ども向けに講演するイベントが12日、京都市上京区の北野天満宮で開かれた。羽生氏は将棋が強くなる秘訣を語り、参加した子どもとの写真撮影に応じるなど交流を深めた。

上京で講演 強くなる秘訣 児童に伝授

諦めない心の大切さ説く

の頃に遊びの一環で将棋を始めた思い出を振り返り、強くなる秘訣として「小さな頃は最初に思いついた一手を大事にしよう」「対局の内容をできる範囲でノートに記し、なぜこの手を指したのか理解を深めよう」と語った。

その上で、将棋に限らず、短期から長期の成功体験を積み重ねれば、困難に直面しても諦めないと説明。相手がいて成り立つ将棋では始まりと終わりのあいさつを大事にし、「幅広い世代でコミュニケーションの一つとして楽しんでほしい」と呼びかけた。

伏見南浜小5年の高畑奏楽君(10)は「羽生さんに会えてドキドキし、うれしかった。今後は、ノートに自分が指した一手を書きたいと喜んだ。」

(相見昌範)